『君の名は。』大ヒットの要因：日本的悲恋物の系譜における位置づけ

打田 素之
神戸松蔭女子学院大学文学部
Author's E-mail Address: jol2017uchida@gmail.com

Reasons why "*Your name*" is a smash hit : Locating the movie in the history of tragic love stories in Japanese cinema

UCHIDA Motoyuki
Faculty of Letters, Kobe Shoin Women's University

Abstract

『君の名は。』ヒットの要因はいろいろと分析されているが、この作品が日本的悲恋物の系譜に属する作品であったことが大きいと考えられる。日本人は近松浄瑠璃の昔から、共同体の制度や倫理に阻まれて、死に行く恋人たちの物語を好んで消費してきたが、こうした障害は社会の発展・民主化とともに、1960 年代は〈難病〉へと姿を変え、80 年以降、新しい要素として〈時間〉が現れた（『時をかける少女』）。『君の名は。』も、「時の隔たり」が恋人達を引き裂いているという点において、この伝統に連なる作品だと言える。

また、彼らの恋愛成就とヒロインの住む町の運命が一体となっていることは（＝セカイ系）、それまで恋人達の敵であった共同体が、彼らの恋愛成就を助ける側となったことを意味し、日本的悲恋が新しい物語形態（＝共同体との和解）を採用するに至ったことを示している。『君の名は。』のラストは、「歴史の流れ不変の原則」に基づいた「忘却のルール」が破られる展開となっており、これは旧来の共同体が力をもてなくなった現代の日本社会において、00 年代以降の大衆の嗜好に合致するものとなっている。

このように、『君の名は。』は日本的悲恋の伝統を受け継ぐ形で、「時間」という障害を採用しながらも、そのルールを変える新しい結末を用意したことが、全世代的なヒットに繋がったと考えられる。

The animated movie "*Your name*" by Makoto SHINKAI was the biggest hit of the year 2016 ; it took about 24300 million yen at the box office. What made "*Your name*" such a smash hit ?

Journal of the Faculty of Letters, Kobe Shoin Women's University, No. 7（March 2018）, *13–22*.
神戸松蔭女子学院大学研究紀要文学部篇 No. 7（2018 年 3 月）, *13–22*.

The first reason is that it follows the dramaturgy of the tragic Japanese love story, although tragic love stories have gradually changed over time. In Japanese cinema lovers used to be separated by social obstacles, morals and ethics, but in the 1960s this changed. In movies such as "*The Heart of Hiroshima*" by Koreyoshi Kurahara 1966 etc. serious disease became the main reason that lovers could not be together. Then in the 1980s in "*The Girl who leapt through Time*" by Nobuhiko OHBAYASHI (1983) it changed again and time gap caused lovers to give up their love. The second reason is that "*Your name*" has made a reconciliation with the community, because the destiny of the heroine's town is connected deeply with the achievement of their love.

The former point could make middle aged and older people go to the theater and the latter attracts all generations who recently tend to tolerate the transgression of the norms of the community and the society. That is the why "*Your name*" is a big hit.

キーワード：時間、難病、大林宣彦、セカイ系、共同体
Key Words: timelag, serious disease, OHBAYASHI Nobuhiko, Sekai-kei, community

1. 『君の名は。』のヒット

2016 年 8 月に封切られた新海誠のアニメ『君の名は。』は、2017 年 2 月の時点で興行収入 243 億円を記録し［キネ旬 2017.3 下：42］、アニメ歴代興行収入第 3 位となっている [1)]。言うまでもなく、この数字は 2016 年度の邦画興行収入のベストワンであり、2 位の『シン・ゴジラ』[2)] の 82 億を大きく超えている [3)]。

ヒットの要因は、いくつも挙げられるが、キネマ旬報の「2016 年映画業界総決算号」は、完成から封切りに至るまでに、1 ヶ月以上の余裕があった [4)] ことで、公開（8 月 26 日）の 1 ヶ月以上前から試写会を繰り返すことができ、SNS やネットを通して評判が拡散して行ったことを指摘している［岡崎 2017：101-104］。他に、小説版の発売（角川書店、2016 年 6 月）による書店とのタイアップ、RADWIPS の音楽のすばらしさなどが挙げられているが、当初、15 億円程度と想定されていたアニメが、歴代の興行収入を塗り替えるほどの大ヒットとなったことは、広報・宣伝戦略の成功以外にヒットの要因があったのではないかと推測される。

ある作品が 100 億円を超えるヒットとなるには、単にアニメに親しんだ世代を取り込むだけでは実現できない。いみじくも東宝の島谷能成社長が 2016 年 1 月の映画製作者連盟の会見で述べているように、この映画の評判が SNS で拡散し、「急伸的に広がったことがきっかけとなり世代、性別を超え、多くの観客の琴線に触れる作品に育っ」たことが大きな原因である［岡崎 2017：102］。

映画ジャーナリストの大高宏雄は 2016 年 12 月の段階で、邦画がヒットする要因として、作品のもつブランド性、原作の力、TV の媒体力、広範な宣伝力、俳優の人気を挙げているが、『君の名は。』にこれらはなかったとして、ヒットの要因は作品としての「クオリティの良さ＝独自性に行き着く」と述べている［大高 2016：74-75］。

では、一体『君の名は。』は如何なる「クオリティの良さ＝独自性」によって、「ネット＝

SNS に親しむことのない多様な年代、階層の人たちを巻き込むことができた」［大高 2016：75］のであろうか。

2. 日本的悲恋物語の系譜

『君の名は。』の「クオリティ」の高さは、これまでにも再三指摘されていることである[5]。しかし、アニメーション技術のすばらしさや声優のうまさをいくら並べ立てたところで十分ではない。このアニメが、若年層だけでなく、世代を超えて観客を動員できたのは、日本人の好む「悲恋物」の系譜に属する作品であったことが大きかった、というのが私達の考えである。ヒーローとヒロインの再会を描いて終わる物語を、「悲恋物」とすることには違和感を覚える向きもあろうが、『君の名は。』は明らかに日本的悲恋物語の系譜に属する作品だと考えられる。

日本の大衆が、コメディ＝喜劇よりもシリアスな恋愛劇を好む傾向が強いことは、しばしば指摘されることであるが［林 2011：46］、それは 2002 年にキネマ旬報誌に発表された、批評家選出によるラブストーリー・ベスト・テンのほとんどの作品が、悲劇で終わることを見てもわかる［キネ旬 2004.12 上：36-37］。

例えば、第 1 位の『浮雲』[6]（1955 年）はヒロインの死によって幕を閉じているし、第 2 位の『野菊の如き君なりき』[7]（1955 年）は、いとこ同士でありながら、本家と小作という身分の違いから、恋人たちは結婚を許されず、他家へ嫁いだヒロインが、流産と予後の悪化から死んでしまうという話である。第 3 位の『近松物語』[8]（1954 年）は江戸時代の物語で、経師屋の手代と主人の妻が偶然の成り行きから密通を疑われ、逃亡を続けるうちに真の恋に目覚めるが、捕らえられて刑死するという物語である。もちろん、ハッピーエンドで終わる作品がランクインしていないわけではない。特に第 4 位の『幸福の黄色いハンカチ』[9]（1977 年）を見た観客は、この上もない幸福感に浸って映画館を出たはずである。

選出された作品のリストを見て興味深いことは、ハッピーエンドで終わる作品があっても、それらは比較的製作年度の新しい作品で、多くの場合、時代設定も現代となっていることである（たとえば、7 位『赫い髪の女』1979 年、44 位『銀座の恋の物語』1962 年）[10]。これに対して、悲劇に終わる作品は、そのほとんどが戦前の日本社会（江戸時代も含む）を舞台としている。これは、単純に考えれば、封建制の強い社会では自由恋愛は許されなかったが、戦後の民主主義社会においては、もはや「悲恋」をテーマにすることは不可能になったから、と言えそうだが、事はそうは単純ではない。と言うのも、日本人の「悲恋物好き」の傾向は、現代でも消え去ってはいないからである。

今、批評家選出によるラブストーリー・ベスト・テンを取り上げたが、興行成績に目をやると、戦後最大のこのジャンルにおけるヒット作は、1953 年に封切られた『君の名は』[11] である。この作品は、今回問題にしている『君の名は。』とは何の関係もないが、1953 年に 1 部と 2 部が公開され、両作品でこの年の興行成績 1 位と 2 位を占めている[12]。

この有名なメロドラマは、東京大空襲の夜に数寄屋橋の上で出会った男女が 1 年後の再会を約して別れるが、社会には戦争の傷跡が深く残っており、ヒロインは帰省して世話になっ

た伯父の勧める縁談を断ることができず、別の男と結婚するが・・・、といった展開である。本稿の目的は、旧作の『君の名は』を分析することではないが、この物語が戦前を舞台としていれば、ドラマ作りの面で、もう少し悲劇の度合いが強い作品となったのではないかと思われる。と言うのも、伯父への恩義による別の男との結婚話というものが、真知子（岸恵子）と春樹（佐田啓二）の恋愛成就を妨げるには、少々力不足なのである。

つまり、江戸時代も含めて戦前を舞台としたラブストーリーは、社会の制度や倫理を厳然とした障害として設定できるが、時代が進んで戦後の民主社会となると、旧来の制度や道徳にもはや恋人達を死に追いやるほどの力はなく、『君の名は』のように「偶然」のすれ違いにでも頼らなければ、「悲恋」を演出することが難しくなった、と言えそうである。ところが、観客の「感涙好み」は相変わらずで、1960 年前後は悲恋物不毛の時代と言ってもいいのだが、1964 年に感動好きの日本人には、この上もない極上の作品が登場する。吉永小百合、浜田光夫主演による『愛と死を見つめて』（斉藤武市監督）である。

この作品は、同年 150 万部を記録したという大ベストセラーの映画化で、軟骨肉腫という不治の病に侵され、21 歳という若さでこの世を去った大島道子とその恋人、高野誠の物語である。原作が実話であったことも大きいが、愛し合いながらも決して結ばれることのない恋人達の運命が、観客の涙腺をしぼったことは間違いない。その後、いわゆる〈難病物〉は日本映画の定番となり、1966 年には『絶唱』[13]、『愛と死の記録』[14] の 2 作が配収の第 2 位と第 6 位にランクインしている。

難病映画の伝統は現在も受け継がれ、2000 年以降、配収ベスト 10 に入った作品を挙げてみると（以下、データは全てキネマ旬報誌）、

2004 年『世界の中心で、愛を叫ぶ』[15]、配収第 1 位。ヒロインは白血病で死亡。

2006 年『涙そうそう』[16]、配収第 9 位。男性主人公は高熱を発して病死。

2007 年『恋空』[17]、配収第 6 位。男性主人公はガンで死亡。

2009 年『余命 1 ヶ月の花嫁』[18]、配収第 8 位。ヒロインは乳癌が全身に転移して死亡。

2010 年代前半は〈難病もの〉不作の時期と言えるが、それでも 2014 年に、大して話題にもならなかった『抱きしめたい』[19] が 21 位に入っていることは、注目に値しよう。

そして、2017 年は春に『君のすい臓が食べたい』[20] があり、12 月には『8 年越しの花嫁』[21] があった。つまり、日本人の悲恋もの好きは昔も今も変わらずで、旧来の制度がかつての力を失った時代には、不治の病を絶対の障害として設定し、切なくも哀れな恋人達の姿に涙することを繰り返してきたのである。しかし、近年、白血病で亡くなる登場人物が多いことに作者達が気がついたのか、あるいは、ガンがもはや不治の病ではなくなりつつあることが原因なのか、1980 年代を境に悲恋物には、新たな障害が導入されることとなる。

3. 『ある日どこかで』と『時をかける少女』

それを最初に行ったのは、実は日本映画ではなく、1981 年に公開されたアメリカ映画『ある日どこかで』[22] だと考えられる。この作品は、クリストファー・リーヴ演ずる劇作家志望の青年が、自身の脚本の初演を終えたパーティーの席で、突然近寄ってきた老婆から懐中時

計を渡されて、「帰ってきて」と告げられるシーンから始まる。物語は以下。

> 8 年後、売れっ子の劇作家となったリチャード（クリストファー・リーヴ）は、偶然宿泊したホテルで、かつての有名女優エリーズ・マッケナー（ジェーン・シーモア）の写真を見つける。写真に不思議な感情を覚えた彼は、彼女のことを調べていくうちに、彼女に対する思いを募らせる。エリーズ会いたさに懐中時計を握り締めて、20 世紀初頭にタイムスリップした彼は、若き日の彼女に会い、二人は恋に落ちる（彼女こそが彼に時計を渡した老婆だったのだ）。しかし、彼らが愛を確かめ合ったその翌朝、リチャードは現代に戻ってしまい、二度と会うことはかなわなかった。

「時の隔たり」が恋人達の前に立ちはだかり、愛し合う二人を引き裂くという設定は、SF 小説のジャンルでは、昔から繰り返されたことなのかもしれない。実際、日本でも筒井康隆が 1965 年に『時をかける少女』でそれを行っている[23]。テレビでは NHK が逸早くこれを『タイム・トラベラー』としてドラマ化[24]したが（1972 年）、現在に属する少女（吉山和子）と未来から来た青年（深町一夫＝ケン・ソゴル）の恋と別れという設定が同じなだけで、物語の展開はかなり原作と異なっていた。作劇の重点は恋の切なさよりも、タイムリープによってもたらされる現象の面白さにあったと言える[25]。

従って、「時間の壁」が恋愛メロドラマに本格的に導入されたのは、管見の範囲では、日本では 1983 年に公開された大林宣彦の『時をかける少女』が最初ではないかと思う。ただ、興味深いことは、この作品の主題歌は、現在では映画音楽のスタンダードとなっているが、監督の大林に拠れば、『ある日どこかで』からインスピレーションを得て作られたのだと言う[26]。つまり、

「あなた　私のもとから／突然消えたりしないでね
二度とは会えない場所へ／ひとりでは行かないと誓って」

というフレーズに込められた思いは、アメリカ映画が描いた「恋の哀切」と同じものだったと考えられるのだ。大林の意図は、尾道を舞台としたジュブナイル小説の映画化であったのかもしれないが、この作品の核心部分には、「時間」という障害に阻まれて二度と会うことのできない恋人達の「恋の切なさ」があったと言ってもよいだろう。

では、具体的にこの作品中で、「時間」はどのようにカップルの前に立ちはだかる壁となっているのだろうか。それは、「未来から来た人間は自分の属する時代に帰らないといけない」というルールの存在である。大林作品の中で、ヒロインの芳山和子は正体（＝未来人であること）を明かした深町一夫に「行かないで」と頼むが、この望みは受け入れられない。なぜなら、「歴史の流れは変えてはならない」から。

『時をかける少女』は、その後、アニメも含めて 4 度映画化されるが[27]、この原則を守った 2010 年の仲里依紗主演の作品は特に哀切を誘う。この映画では、涼太（中尾明慶）がバスの転落事故で亡くなることを知った主人公のあかり（仲）は、彼が乗った長距離バスを新宿のバスターミナルで止めようとするが、未来から来た母（＝芳山和子）の恋人、深町一夫によっ

てそれを断念させられている（「どんなに残酷なことであっても、歴史は変えてはいけないんだ」）。そして、現代に戻ったあかりの記憶から、涼太の思い出は（深町によって）完全に消されている。

しかし、この「時間」という新しい障害は、もはや制度や難病ほどの力を持つことはできていない。2006 年の細谷守のアニメ版『時をかける少女』では、ヒロインの紺野真琴はタイムリープによって「歴史」を何度も書き変えているし、未来から来た高校生、間宮千昭のことを忘れることもない。作中で「タイムリープのことを過去の人間に話してはいけない」というルールは言及されてはいるが、これも破られている。そのため、二人の関係に悲恋の色合いは薄く（ヒロインは恋人との再会を確信している）、明るい青春 SF として仕上がっている［氷川 2008］。

アニメ版の展開からわかることは、「時間」が日本的ラブストーリーにおいて恋の障害としての役割を果たすためには、「未来から来た人のことは忘れられねばならない」という「忘却のルール」と「歴史の流れ不変の原則」の二つが必要とされているということである。

今回、問題としている『君の名は。』も、3 年という「時の隔たり」がヒーローとヒロインを引き裂き、お互いの記憶が消えていくという点では、「忘却のルール」は守られているのだが、「歴史の流れ不変の原則」は維持されていない。なぜなら、未来から来た青年、立花瀧によってヒロインにもたらされる情報は、彼女の住む町の運命を変えることになるからである。

4. セカイ系としての『君の名は。』

近松門左衛門の昔から日本の大衆が好んで消費してきた悲恋物語は、常に恋人達の運命に焦点が当てられていて、彼らの生き死にが世界の行方を左右するなどということは考えられもしなかった。むしろ、彼らが消滅した方が世界（＝世間という共同体）の存続にとって利益でさえありえた。ところが、『君の名は。』では、主人公達の恋の行く末と、ヒロインが属する共同体の運命が表裏一体となって、利益を同じくしている。

この作品の前半部分は、ヒーローとヒロインの心（つまり、身体）の入れ替わりを中心に物語が展開するのだが、人格の入れ替わりにも慣れた頃、主人公の瀧は、ヒロイン三葉の住む糸守町の風景に興味を持ち、入れ替わりの記憶から描いたスケッチを頼りに三葉の住む飛騨へ行こうとする。

> ところが、ようやくたどり着いた糸守町は、3 年前に彗星が落下して消滅している。このことから、瀧は過去の三葉の時代にタイムスリップしていたことを知り、二人の入れ替わりには 3 年間のズレがあることがわかる。
>
> 三葉が作った口噛み酒を飲んで 3 年前の三葉となった「未来」の瀧は、彼女の友人達と協力して「過去」の糸守町を救おうとする。彗星落下の直前に、二人は時空を越えて御神体のある山の上で出会うが、それ以降、入れ替わりは全く起こらなくなる。
>
> 町の住民達は、三葉たちの活躍によって避難に成功し、三葉もまた生き残る。

この後、二人はお互いの名前を忘れ、やがて身体が入れ替わっていたことさえ忘れてしまう。この点で、「忘却のルール」は維持されていると言えよう。しかし、「歴史の流れ不変の原則」が守られずに、糸森町の住民たちが救われたことは、日本の観客が好むラブストーリーの形体が新しい形を取り始めたことを示唆しているように思われる。

周知のように、『君の名は。』は、90 年代からアニメ、マンガ、ライトノベルといったジャンルに多く見られる「セカイ系」と称される説話ジャンルに属する作品である。「セカイ系」とは、

> 主人公と恋愛相手の小さく感情的な人間関係を、社会や国家のような中間項のような描写を挟むことなく、「世界の危機」「この世の終り」といった大きな存在論的な問題に直結させる［東 2007：96］

物語のことである。『君の名は。』においては、糸守町という「中間項」も丁寧に描かれているが、瀧と三葉の恋（個人的な問題）が町の運命（大きな問題）と密接に結びついていることから、この作品がセカイ系の物語であることは明らかであろう。

かつて我々は、難病映画と日本的悲恋物との関係を論じた際に［打田 2015：83-94］、恋愛映画のクラッシックにおいては、恋人達の属する共同体が彼らの恋を阻む最大の障害となっていることを指摘したが、「セカイ系」の作品においては、もはや共同体は障害として恋愛成就の脅威となるどころか、むしろそれを応援する存在ですらある（瀧と三葉の恋の成就は、糸森町の住人の生存如何に掛かっている）。つまり、『君の名は。』はセカイ系の物語であることによって、悲恋物における共同体の機能を全く変質させるに至っているのである。

5. セカイ系＝〈共同体との和解〉

実を言えば、障害としての共同体の役割は、1960 年代後半に難病映画が登場したときにすでに終わっていたと言ってもよいのだが、その時はただ姿を隠しただけで、まだ恋人達の外部に存在してはいた。『愛と死の記録』において、幸雄（渡）の死後すぐに和江（吉永）は周囲から縁談を勧められているし、2004 年になっても『世界の中心で、愛を叫ぶ』では、鼻血を流して倒れた直後、アキ（長澤）は父親によってサクの前から連れ去られている。ところが、半世紀以上の長きに渡って、道徳と倫理を体現する社会＝共同体を「かなわぬ恋」の最大の敵とみなしてきた日本的メロドラマは、『君の名は。』の登場によって、ついに共同体との和解をなしえたのである。

恋愛成就の障壁が取り払われた今、もはや「忘却の法則」が維持されなければならない理由など存在しない。『君の名は。』はそれを鮮やかに超えて見せる。

『君の名は。』のラストシーン。

> 彗星の墜落から 8 年が過ぎ、社会人となった瀧と三葉は入れ替わりのことなどすっかり忘れていた。そんなある日、すれ違う電車の中に二人は懐かしい人の姿を見つける。

次の駅で降りて駆け出した彼らは、途中、住宅街の階段ですれ違う。
その時、二人の口をついて出た言葉は、
「君の名前は。」

「だれかひとりだけを探している」［新海 2016：9］といった思いを心に残していた瀧と三葉は、この瞬間に日本的悲恋を「共同体」と「時間」の桎梏から解放したと言えよう。私たち日本の観客は、社会の制度や倫理、そして難病の前に破れ去る恋人達を絶えずスクリーンに登場させることによって、共同体がもつ価値観を許容、肯定してきたが、今やその箍は取り払われたのだ。

1983 年の『時をかける少女』から『君の名は。』に至る「時間ルール」の変質は、戦後の日本社会において共同体が果たしてきた役割の変化と連動しているように思われる。世間という外部基準が厳然とした力を持っていた 70 年代までは、恋人達は道徳と難病の前に命を失うしかなかったのだが、旧来のコミュニティが解体した 80 年代以降、制度と病に変わる存在として登場した「時間」は徐々に変質を迫られ、もはや日本的悲恋を成立させる決定的な要素とはなりえなくなったのである。

だからと言って、今後、「時間の壁」をテーマとした恋愛物が作られないと言うつもりもなければ、難病映画がなくなると主張するつもりもない。まだまだ、日本人の「感涙好み」は健在であるし、「人の目」という外部基準は社会のどこにでも存在しているであろうから。

ただ、最後に一こと付言するなら、2017 年の 12 月に公開された『8 年越しの花嫁』の結末は、『君の名は。』と同様の傾向を示しているように思える。と言うのも、この作品は典型的な〈難病物〉に属する映画であるにもかかわらず、主人公達は 8 年間に渡る病魔との戦いを経て、恋愛成就を果たすからである。このことは、共同体という外部存在が希薄となった現代の日本において、感涙のために必要とされるのは、もはや越えることのできない障害などではなく、恋人たちの「個人的な事情」（「すこしだけでも、一緒にいたい」［新海 2016：249］）を絶対の価値として表現することにあるように思われるからである。

このように、『君の名は。』は日本的悲恋の伝統を踏まえながら、21 世紀に入っての大衆の心理を巧みにとらえる結末を用意していたからこそ、あれほどのヒットになったのではないだろうか。

注

1）ちなみに、第 1 位は『千と千尋の神隠し』（2001 年）で 304 億、第 2 位は 254 億の『アナと雪の女王』（2014 年）。https://matome.naver.jp/odai/2147436580118708801

2）樋口真嗣監督、長谷川博巳他。

3）ちなみに、外国映画の 2016 年度の興行収入 1 位は『スターウォーズ フォースの覚醒』（J・J・エイブラムズ監督）で 116 億。この数字と比べてみても、『君の名は。』のヒットが如何に驚くべきものであったかは一目瞭然であろう。

4）7 月 7 日に完成披露試写会が行われている。

5）ユリイカ 2017 年 9 月号「特集 新海誠」（青土社）、キネマ旬報 2016 年夏の増刊号「アニメーション映画特集」（No.1723）など。

6）成瀬巳喜男監督、高峰秀子、森雅之主演。

7）木下恵介監督、田中晋二、有田紀子主演。

8）溝口健二監督、長谷川一夫、香川京子主演。

9）山田洋次監督、高倉健、倍賞千恵子主演。

10）このベスト・テンには、全部で 110 本の作品がリストアップされているが、そのほとんどが悲劇的な結末を持った作品である。

11）大庭秀雄監督、佐田啓二、岸恵子主演。

12）翌 1954 年に第 3 部が公開され、この作品もその年の配収ベスト 1 となっている［キネ旬 1986 増刊：17］。

13）西川克己監督、舟木一夫、和泉雅子主演。この作品では、ヒロインの小雪（和泉）の死因ははっきりとは描かれないが、結核の療養所で働く場面があり、恐らくはそのことが原因で亡くなったと考えられる。

14）蔵原惟繕監督、渡哲也、吉永小百合主演。この作品では、渡演ずる幸雄が「原爆病」で亡くなっている。

15）行定勲監督、長澤まさみ、森山未来主演。

16）土井裕泰監督、妻夫木聡、長澤まさみ主演。

17）今井夏木監督、新垣結衣、三浦春馬主演。

18）廣木隆一監督、榮倉奈々、瑛太主演。

19）塩田明彦監督、北川景子、錦戸亮主演。

20）月川翔監督、浜辺美波、北村匠海主演。

21）瀬々敬久監督、佐藤健、土屋太鳳主演。

22）ジュノー・シュウォーク監督、クリストファー・リーヴ、ジェーン・シーモア主演、1980 年、ユニヴァーサル作品。原題は *Somewhere in Time*。

23）初出は学習研究社の学年誌「中学 3 年コース」1965 年 11 月号～「高校 1 年コース」1966 年 5 月号。

24）1972 年 1 月 1 日～ 2 月 5 日。少年ドラマシリーズの第一作として放映された。人気を博したことから、『続タイム・トラベラー』（同年 11 月 6 日～ 12 月 2 日）が作られている。

本編は、筒井康隆の小説を原作としているが、続編は石山透のオリジナル作品。

25）このドラマは、全六回の 30 分番組として放映されたが、現在見ることができるのは、最終回の第 6 話のみ（Youtube）で他の回は失われている。ただ、続編も含めたシナリオが残されており、石山透の脚本を通してその全貌を知ることができる［石山透 2016］。

26）レンタル用 DVD（DABR-0128）に収められたインタビューの中での大林監督の発言。

27）映画は、以下。

1983 年：前述。1997 年：中本奈奈、中村俊介主演、角川春樹監督。

2006 年：アニメ作品、細田守監督。2010 年：仲里依紗、中尾明慶主演、谷口正晃監督。

他に 4 度の TV ドラマ化がある（1972 年、1985 年、1994 年、2002 年）。

文献

キネマ旬報 1986 年 2.13 増刊号「映画 40 年全記録」、No.929。

キネマ旬報 2004 年 12 月上旬号（特集「ジャンル別オールタイム ベスト・テン ラブ・ストーリー日本映画」）、No.1411。

東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』、講談社新書、2007 年。

石井透『タイム・トラベラー』、復刊ドットコム、2016 年。

打田素之「あわれの恋、情念の愛」『フランスと日本　遠くて近い二つの国』、早美出版社、2015 年。

江藤茂博『「時をかける少女」たち ―― 小説からの変奏』、彩流社、2001 年。

大高宏雄「『君の名は。』のヒットが邦画製作の可能性を大きく広げる」、キネマ旬報 2016 年 12 月上旬号、No. 1733。

岡崎優子「『君の名は。』ジャパンドリームを生み出した軌跡」、キネマ旬報 2017 年 3 月下旬「映画業界決算特別号」、No.1741。

公式ビジュアルガイド『君の名は。』、角川書店、2016 年。

新海誠『君の名は。』、角川文庫、2016 年。

林瑞絵『フランス映画どこへ行く』、花伝社、2011 年。

氷川竜介「時をかける永遠性 ―― 思春期と時間 SF の関係」『BS アニメ夜話 vol.09 時をかける少女』、キネマ旬報社、2008 年。

（受付日 : 2017. 12. 11）